

令和4年度 赤十字運動について

赤十字とは

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第一回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界192の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを活かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの社であり、西南戦争における負傷者救護で初めての活動を行って以来、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

日本赤十字社の活動

1. 国内災害救護

災害時に必要とされる救護を迅速に行うため、訓練、物資の整備、人材育成など、常に災害に対応できる体制を作り、災害時にはいち早く、救護班などを派遣し、救護活動を行います。

2. 国際活動

災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、世界最大のネットワークを活かして、緊急時の救援や復興支援、予防活動に取り組みます。

3. 救急法などの講習

身近な人を救うため、とっさの手当てや日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識・技術の普及と啓発を行います。

4. 赤十字ボランティア（赤十字奉仕団）

「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持つ同志が、その思いを結集し、全国で様々な赤十字活動を行います。また、地域における防災教育の普及を担うボランティアの研修も行っています。

5. 青少年赤十字

世界の平和と人道の実現のため、未来を担う青少年が実践活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できる学びの機会を提供します。

6. 看護師などの教育

赤十字精神に基づき国際人道法や災害看護を学び、豊かな人間性と看護に関する幅広い知識・能力を備えた人材を育成します。

赤十字運動について

日本赤十字社の前身である博愛社が設立された5月を赤十字運動月間として、皆様から活動資金（会費）の募集を行っています。

皆様からいただいた活動資金（会費）は、左記に記載している災害救護活動をはじめ、苦しむ人々を救う様々な活動に大切に使用されています。赤十字運動に協力するということは、日本赤十字社を財政的に支えるとともに、奉仕活動の一翼を担う立場に立ち、人道的事業に参画し、国内はもとより国際的な人類の助け合い運動の仲間入りをするという意義があります。

日本赤十字社益城町分区とは

日本赤十字社熊本県支部には、各市町村に地区・分区があります。益城町では、社会福祉協議会が業務を受け日本赤十字社益城町分区として赤十字運動を行っています。



皆様のご協力を

よろしくお願いいたします

令和3年度活動資金（会費）実績

日本赤十字社益城町分区実績

・一般会費	3,246,350円
・法人会費	45,000円
・口座振替等	80,503円
合計	3,371,853円

日本赤十字社益城町分区 令和3年度実績

収入

1 前年度繰越金	506,611
2 事務費交付金	337,185
3 事業費交付金	325,835
合計	1,169,631

支出

1 小地域活動配分金（67嘱託区）	324,635
2 災害救護（車両関係）	117,240
3 事務費	107,480
4 次年度繰越金	620,276
合計	1,169,631

日本赤十字社熊本県支部 令和4年度予算

歳入

	項目	金額
1	個人・法人からの社資（寄付金）	250,000,000
2	本社交付金	3,400,000
3	雑収入	7,510,000
4	前年度からの繰入金	23,300,000
	合計	284,210,000

歳出

1	災害救助・災害救護装備・救護看護師養成	62,550,000
2	赤十字講習会	13,150,000
3	青少年赤十字・奉仕団育成、地域福祉活動	14,060,000
4	市町村の赤十字活動	43,690,000
5	赤十字思想普及・献血推進等	44,680,000
6	国際活動・本社事業	36,520,000
7	管理運営・施設整備	69,560,000
	合計	284,210,000